

間に蒲の穂を生け花としてさすのを懐しい思い出として
おぼえております。

冬、川に薄氷がはる頃、鮒が果につくといつてあまり
動かなくなる時があります。小舟に乗って鮒つかみに出
かけます。川岸の杭の間へそつと両手を入れてさぐると
鮒が面白いように手でつかめました。両手を真赤にして
川岸をさぐり歩いた事。着物を泥だらけにして母に叱ら
れたこと、四季を通じて川は私たち子供のよき遊び場
でありました。故郷の味というものは、こんな思い出の中
に強く植えつけられるのではないのでしょうか。故郷を愛
する心、人を愛する心がこんな自然の中の暖かい思い
出の中にはぐくまれるのではないのでしょうか。

古きよき時代の水郷土浦を回顧し、本当の水郷情緒と
いろいろが町の中にまであつた当時を想いかえして、今
からの町づくりを少しでも自然を多くとり入れた、緑が
少しでも多くなることを切望するものです。

△保立食堂主△

桜川周辺インタビュー

村山 なほ 美
助 川 順 子
入 江 史 子

桜川の自然公園化について、市民の方々の意見や考
えを知るために、桜川周辺をインタビューしてみました。
今後更に運動を進めて行く上で参考にしていきたいと思
います。

日時 4月22日 午後4時～6時半

4月29日 午前11時～午後4時

インタビュースタッフ(九名)

カメラマン 一名 おばあさん 一名

食堂経営者 一名 主婦 一名

釣り人 四名 農家の人 一名

◇土浦橋近くにて(40代の男の人)

問 釣り歴は長いですか。